

令和２年度第２回山口県高齢者医療懇話会（会議録）

日時 令和３年１月２９日（金）
午後１時３０分～午後３時０５分
場所 山口県後期高齢者医療広域連合大会議室
（山口県自治会館４階）

【出席者】

出席委員：田中委員（会長）、中村委員、河村委員、浜田委員、万代委員
清水委員、山本委員、山下委員、田畑委員、桑元委員

広域連合事務局：斉藤事務局長、山田事務局次長、松浦総務課長、藤川業務課長、
重富総務課長補佐、阿部業務課長補佐、磯田総務係長、樫部資格・
保険料係長、桑原医療給付係長、安部保健事業推進係長、小倉主事

欠席委員：山野委員、高田委員

１ 開会・事務局長挨拶

本日はご多忙の中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また平素より広域連合の取組に対しまして、ご理解、ご支援いただき厚くお礼申し上げます。

はじめに、本年度の事業実施状況についてですが、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の取組の初年度であり、広域連合では市町の取組を支援するため４つのモデル事業を延べ２３市町において計画・実施しております。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、一部事業縮小や中止もありますが、概ね予定通り事業が行えているものと考えております。ご協力をいただいております医療関係団体の皆様には心からお礼申し上げます。おかげさまで来年度は新たに８市町において一体的実施の取組をスタートすることができる予定です。

次に後期高齢者医療の来年度の見込みです。当初予算ベースで被保険者数は若干の減少、一人当たり医療費は若干の増加を見込んでおります。新型コロナウイルス感染症の影響により今年度の医療費は大きく減少しておりますが、今後の状況の見通しが難しいため、来年度の一人当たり医療費は例年ベースで０．１８％程度の増加を見込んでおります。一方、被保険者数については７５歳到達人口が団塊の世代直前ということもあり一番少ないため、若干の減少を見込んでおります。

次に窓口負担割合の見直しについてです。これまで国において検討されてきた被保険者の医療費の窓口負担割合については、昨年１２月に政府案が閣議決定し、現行の１割負担から２割負担となる所得水準が決まりました。また、実施日については来年

10月以降となっております。本県における対象被保険者数は全国平均とほぼ同様の2割程度と見込んでおります。

団塊の世代の全ての方が75歳となる2025年に向けてこうした制度改正等が進められております。広域連合といたしましては、引き続き市町への保健事業を委託し一体的実施の取組を推進するとともに、医療費適正化対策の充実により、一層の保険者機能の強化に取り組むこととしております。

さて、本日の会議では高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について、データヘルス計画の中間見直しについてのほか、窓口負担割合の見直し等のご説明をさせていただきます。委員の皆様には忌憚のないご意見を頂きますようお願い申し上げます。まして開会の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

2 テーマ

- (1) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について [資料1]
- (2) データヘルス計画の中間見直しについて [資料2]

〈質疑応答・意見交換〉

＜事務局から資料1の説明＞

【会 長】 内容についてご質問、ご意見等ありますか。

【委 員】 市町対象の研修会について、実施回数、内容は決まっているのか。また研修は市町ごとか。今年度の実施はあったのか。

【事務局】 今年度は実施していないが、来年度は行う予定としている。詳細については決まっていないが、6種類の研修を予定しており、市町ごとではなく1会場に集まっていたく予定。

【委 員】 健康づくり介護予防セミナーを老人クラブとして地域で行っているが、参加者の話を聞くと健康づくり、介護予防の大切さを改めて感じる。特に健康づくりは高齢者同士の支え合いが大事だと感じる。

【委 員】 シルバー人材センターでは、現在、高齢者の健康管理に重点を置いており広域連合の健康診査受診勧奨への期待がとても大きい。オーラルフレイル予防については本来であれば今年度、会員や一般の方向けに実施する予定とされていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で断念した。今後も健康診査受診と併せてオーラルフレイル予防についても推進していきたいと考えている。

<事務局から資料2の説明>

【会 長】 内容についてご質問、ご意見等ありますか。

【委 員】 健康診査受診率の多寡によって国からの補助金額に影響があるのか。

【事務局】 直接的な影響はない。

【委 員】 シルバー人材センターでも健康診査受診の啓発を行っており、昨年度は自前でリーフレットの作成、配布を行った。広域連合でも受診勧奨のリーフレットやパンフレットを作成しているのか。

【事務局】 ポスターについては医療機関配付用に作成している。リーフレットについては作成していない。

【委 員】 ポスター等作成しているのであれば情報共有したいと考えている。シルバー人材センターでは平均年齢が73.2歳となり後期高齢者の方が多くなっているため、積極的に受診勧奨を行っていききたい。よろしくお願いします。

【事務局】 情報共有についてはこちらも検討していきたい。

3 その他（情報提供等）

（1）後期高齢者の窓口負担割合の見直しについて [資料3]

（2）新型コロナウイルス感染症の状況について [資料4]

（3）平成30年度山口県後期高齢者医療費の市町差分析について [資料5]

<事務局から資料3～5の説明>

【会 長】 内容についてご質問、ご意見等ありますか。

【委 員】 窓口負担割合について、2割負担となる対象者が山口県では19.9%と資料にある。新型コロナウイルス感染症による所得減などが考えられるが、対象者の見直しなどは考えているか。

【事務局】 現時点では国が示したとおりであり、考えていない。今後は国の動向を確認しつつ対応したい。

【会 長】 2割負担となる対象者には被保険者証の変更などがあるのか。

【事務局】 未定である。被保険者の混乱を招かない方法を検討していきたい。

【会 長】 マイナンバーカードが被保険者証の代わりになることに伴い、被保険者証の修正や、様式の変更等があるのか。

【事務局】 国民健康保険では被保険者番号に枝番を付ける等があるが、後期高齢者医療においてはそのようなことはないと思われる。

【委員】 負担割合が変わることにより上限（限度額）管理が必要になると思う。マイナンバーカードが被保険者証の代わりになるという話もあるがその点についてはいかがか。

【事務局】 医療機関でも過去の受診歴や医療費の上限額を閲覧できるようになると思われるが、それには被保険者のマイナンバーカード取得や医療機関の機械の設置等も必要になってくる。上限額を超えた場合はこれまで同様、広域連合から被保険者に返すということになると思われる。

【委員】 自己負担が2割になることで、低所得者が医療機関にかかりづらくなると思う。そういった方へのサポート等をどのようにお考えか。

【事務局】 明確な回答は出ないが、今後の国の議論も踏まえた上で対応したい。また、健康づくり、予防保健の観点からも高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施を推進していきたいと考えている。

【委員】 新型コロナウイルス感染症のワクチンの普及はいつなのか、一人世帯の高齢者が買い物などの外出を控えることによる食事面の不安、また病院の窓口での負担割合の増加が不安だという声をよく聞く。

【会長】 高齢者の孤立が問題となりつつあり、電話でコミュニケーションを取る等みんなで対応しないといけない。新型コロナウイルス感染症ワクチンについてはニュース等で見る情報程度のことしか分からないと思うが、引き続き情報を収集し対応していくことが大事ではないだろうか。

【委員】 窓口負担割合の見直しについては、どこで線引きをしても公平なものにするのはなかなか難しいと思う。だからこそ予防に力を入れていただきたい。例えば低所得の方に積極的に健診を受けてもらうなど。また、資料5の分析を活かして市町格差がない医療受診につなげてほしい。

【委員】 資料5の9ページの「入院外」について、長門市が一日当たりの医療費の寄与度が高いのは何か理由があるのか。

【事務局】 推測になるが、受診率と一件当たり日数が少なく、一日当たりの医療費が高いということは集中した医療が多いのではないか。また10ページ表7入院外の「調剤」項目が長門市は突出して高いので、一回の診療で多くの投薬がされているのではないか、また高い医薬品を必要とする疾病が多いのではないか。

【委員】 長門市独特の特徴があるのか

【事務局】 そういった点を分析し、次回は掘り下げていきたい。

【委 員】 保健事業とも連携ができれば良いのではないか。

【事務局】 疾病分析を保健事業に活かすことはデータヘルス計画の中に挙げているので、連携していきたいと考えている。

5 閉会

会長より閉会を宣言